

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p>【歴史や文化を生かした観光振興について】 西尾には、明治時代の始めまで「西尾城」という立派な城があったことを知りました。また、今の歴史公園は、その一部が復元されたものであることも知りました。歴史公園の周りには、抹茶を飲むことができる近衛邸や、古い町並みが残っていて、市内の小学生たちが、西尾市を訪れた人たちのためにPRしていることもわかりました。しかし、最近では、その古い町並みも保存していくことが難しくなっているようです。それは、そこに住む人が少なくなっているからだと思います。広い通りから一歩中に入れば、静かでゆったりと時間が流れていて、どこか佐久島と似ています。 歴史公園周辺は来年度リニューアルすることを聞き、城マニアの人や外国人にとっても人気が出ると思います。もっと、多くの皆さんに西尾の魅力を知ってもらいたいため、リニューアルと合わせて何かできないか考えてみました。</p>	<p>【質問1】 歴史公園付近が新しく生まれ変わると聞きましたが、具体的にどのように変わりますか。</p>	<p>【市長】 現在、SNSに投稿された写真を見て、佐久島に來たり、市内のカフェに來たりする人たちがここ数年で増えています。SNS利用者が増えていることや、インスタ映えがブームになっていることは、西尾市にとっては追い風となっています。現在、城のような建物が道路から見えると思いますが、城ではなく櫓です。現在進めている工事は、もうひとつ櫓を作っています。それと、建設した櫓の隣に塀を作っています。屏風のように折れている作りの塀で、全国的にみてもとても珍しいものです。令和2年の夏頃までには何とか工事が完了できればと思っています。</p>	<p>文化振興課</p>
<p>【提案1】 現在、歴史公園内の建物は、周りの木々が成長しすぎて、通りから見にくい状態になっています。まずは、城の雰囲気や景観を守りつつ、伸びた周りの木々を伐採し、建物を目立たせることが必要です。また、周辺の街並みを保存していくために、市民が協力し保存・修繕活動を行うこともできると思いました。リニューアル後の来場者を増やすためには、西尾城の中を見て楽しんでもらいながら、抹茶をたてたり、着物を着れるなど気軽に西尾を体験できるコーナーがあっても面白いと思います。大切なことは、ホームページやSNSを活用し、広く情報を発信することです。インスタ映えする場所や食べ物が注目され、若い人たちがどっと押し寄せるからです。</p> <p>【提案2】 佐久島もアート作品を見たり、島の中を散策するために、土日や春休みなどは、若い人たちがたくさん訪れてくれます。私は、島に住んでいませんが、たくさんの人たちが一緒に船に乗っていく場面を見ると、とても活気があって素敵だと感じます。西尾の中心部が盛り上げれば、西尾市全体が活気づくと思います。</p>	<p>【質問2】 新しく生まれ変わるタイミングで体験型施設の要素も取り入れてはどうかと思いますが、市長の考えを教えてください。</p>	<p>【市長】 体験型施設の要素を取り入れることはいいことだと思います。歴史公園内には西尾市資料館があり、西尾の歴史や文化への理解を深めるためにテーマを決めてイベントや展示を行っています。例えば、「侍」をテーマにした展示を行っている時には、甲冑の試着体験を行っており、特に男の子には人気があるようで楽しんでいただいていますので、体験型イベントは継続したいと思っています。また、春や秋など過ごしやすい時期には、歴史公園内でコスプレを楽しんでいる人がいます。趣味を楽しんだり、仲間と交流したりして満喫していらっしゃるので、ひとつの体験かなと思います。提案いただいた抹茶を点てる体験も含め考えていきたいと思っています。何かを見るだけとか、飲むだけじゃなくて、体験できると楽しさが2倍、3倍になると思うので参考にします。</p> <p>【文化振興課】 最近、城マニアや歴史マニアが多くなっており、訪れる方は大変勉強もされています。そのため、西尾城も本物志向で江戸時代同様の木造で作ろうと考えています。屏風折れの土塀は全国でも珍しく、復元されれば日本中から城マニアが大勢訪れ、まちも活気づくと期待を寄せています。また建物を建てるハード面だけでなく、ソフト面も充実させる予定です。現在考案しているは御城印です。寺・神社でいう御朱印で、城バージョンの御城印を作り、西尾城をPRしていきたいと考えています。</p>	<p>文化振興課</p>

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
	<p>【質問3】 西尾市を訪れる観光客は、年間どれくらいの人数ですか。</p>	<p>【市長】 統計数字としては、年間350万人となっています。統計的な数字は、市内の主要な集客施設、例えば一色さかな広場に来た人の人数などを全部足し合わせて出してる数字なので、実際に市内のカフェを訪れた人が何人いるかなどは把握していません。具体的に来場者数が多い施設としては、憩の農園が大体70万人から75万人くらいです。一色さかな広場も同様に70万人くらい毎年来てくれています。道の駅にしお岡の山が50万人前後で、愛知こどもの国が30万人くらいとなっています。</p>	<p>商工観光課</p>
	<p>【質問4】 佐久島にも歴史や伝統が受け継がれています。島の歴史文化を守るためには、人口が減っては保存活動もできません。佐久島の人口を増やす対策はしていますか。</p>	<p>【市長】 アートによる島おこしは、20年くらい行っています。それがひとつのきっかけとなり、佐久島を訪れる観光客や移住者も増えました。島民の皆さんによる組織で「島を美しくつくる会」という団体があり、事業開始から行政と一緒に力を合わせ、島の活性化事業を行っていますので、今後も連携を図っていきたくと考えています。平成29年度には、休耕畑を活用しサツマイモの栽培を始め、「咲く島」という焼酎を作り、土産品としても人気があります。また、サツマイモを使ったメニューの開発も行っており、島内のカフェや民宿、旅館でメニューとして出してもらっています。愛知県にも協力していただき、特産品の開発にも力を入れていきたくと思っています。令和2年度からは、佐久島に光ファイバーケーブルを敷設しブロードバンド環境を整えていきます。最近では、東京・大阪・名古屋の会社が、本社とは別に田舎に事務所を作り、サテライトオフィスとして活用するケースが全国各地で展開されています。その背景には、仕事もやりつつプライベートも楽しむというような価値観や働き方改革といった意識の変化に伴っています。田舎でのんびり生活し、そこに居ながら都会にいたときと同じように仕事もできる環境が人気となっています。現代社会の中では、仕事をするためにパソコンは欠かせないアイテムで、地方（田舎）において、ブロードバンドの光ファイバーが繋がるか否かはサテライトオフィスとしての場所を選ぶうえで重要となっています。環境を整備することで、島内のクライングルテンに居住し佐久島でのんびりとした生活を楽しみながら、仕事ができることをアピール、定住・移住促進を図っていきたくと考えています。</p>	<p>佐久島振興課</p>